

【9.11メモリアルの歩み】

【第1回 2002】

中野（野方区民ホール・中野芸能小劇場）で和久内明自身の肉声による「9・11メモリアル和久内明 詩のリサイタル」として初開催。

【第2回 2003】

東京新宿の安田生命ホールで、国際的作曲家・ピアニストの安田芙充央さん、バイオリニストの江口有香さん、シンガーソングライターの a k i さんの協力参加による「第2回9・11メモリアル コラボレーション 光・響・詩」開催。

【第3回 2004】

詩人谷口ちかえさんの協力を得て、ハイチ、カリブ世界との交流を実現（東京中野ゼロ小ホール）。

《ゲスト》 島崎隆さん（一橋大教授）、渡辺憲正さん（関東学院大教授：現副学長）、宇野淑子さん（元TBSアナウンサー）、佐藤文則さん（フォトジャーナリスト）、高岡美智子さん（ハイチの会セスラ）、山田かりんさん（ハイチ出身）、マニッシュュさん（ハイチ：スティールパン第一人者）と「マニッシュュ&ソニックス」（三郷市）

【第4回 2005】

杉並区の新東京會館『シダー』で2日間にわたって行う。1日目は、若山牧水の抒情詩を牧水直伝の朗読を聴きながら確かめ、2日目は、国際的に活躍する80代後半の詩人による戦争体験を土台にした朗読とお話を伺った。

《ゲスト》 1日目 村山道宣さん（民俗学者・一橋大講師）
2日目 川端律子さん（詩人）

【第5回 2006】

同じく新東京會館で2日間行った。1日目（3F）は、日本を代表する教育学者堀尾輝久氏を迎え、氏の自分史を歌唱を交えて振り返る中で、平和の意味を思った。また、子どもたちによる詩の朗読も行われた。2日目（7F『シダー』）は、特別ゲストとしてハイチの著名詩人クリストフ・シャルル氏が来場され、フランス語で詩を朗読、お話を伺った。また、戦争と平和を題材にした詩の朗読を各地の詩人たちが披露。

《ゲスト》 1日目 堀尾輝久さん（東京大学名誉教授）
2日目 クリストフ・シャルルさん（詩人：ハイチからの特別ゲスト）、

谷口ちかえさん（詩人）、森井香衣さん（詩人）、葛原りょうさん（詩人）、比嘉名進さん（詩人）、府川清さん（詩人）、古久保和美さん（詩人）、美異亜さん（詩人）、山田かりんさん（ハイチの会セストラ：ハイチ出身）、秋元史人さん（朗読：フリー）

〈2日目来賓〉 葵生川玲さん（詩人・日本現代詩人会理事長）

【第6回 2007】

杉並区の新東京會館«シダー»を会場に、詩人の方々のご協力と朗読、朗読界のホープ藤堂叶倫さんの友情出演を得て、有名な原爆詩の朗読も聴くことができた。

《ゲスト》 谷口ちかえさん（詩人）、比嘉名進さん（詩人）、府川清さん（詩人）、古久保和美さん（詩人）、岩崎稔さん（詩人）、荒波剛さん（詩人）、藤堂叶倫さん（ナレーション・司会・朗読）

- なお、第1～5回は、映像作家の兼古昭彦さんのご参加をいただき、第1～3回は、報道カメラの山入端満さんのご協力をいただいた。第4～6回には阿佐ヶ谷実行委員会（委員長松坂武政氏／阿佐ヶ谷一番街「さつまや」店主）のご協力をいただいた。
-

【第7回 2008】

会場を、杉並区にある日本基督教団阿佐ヶ谷教会礼拝堂に移し、国際的に活躍する観世流能楽師津村禮次郎さん（重要無形文化財能楽総合保持者）が、能舞「ルークス・アエテルナ永久の光よ」を初演した。小島英明（地謡）、鈴木啓吾（地謡）、坂田正博（小鼓）、栗林祐輔（能管）各氏の協力で見事に日本が誇る能楽が現代によみがえり、参加者は深い感動に包まれた。この会から《報告集》が発行された。朗読には、和久内明のほか、秋元史人さん（朗読：フリー）が参加。会の冒頭に教会の主任牧師大村栄さんのご挨拶をいただいた。